

台風19号1カ月

車水没死どう防ぐ

徒歩避難難しい場合も

台風19号では、10月13日に東松山市で冠水した車の中から意識不明の男性(70)が見つかり、その後死亡が確認された。県は「車での避難は勧めない。歩いて避難してほしい」としているが、台風接近前の10日に県ホームページ(H.P.)で発信した「県民の皆様へのお願」では車避難の自衛は呼び掛けていなかった。同課は、場所によっては車での避難が必要な自治体もあるとして「絶対に車避難しないで」と言っているのは難しいと話している。

(伊藤明日香)

安全ルート確認を

同課によると、それぞれの避難所まで遠い場合や、要市町村が定める避難計画には介護者で避難所まで歩けない車での移動を前提としている場合は車で移動させるを得ないものは少ない。しかし山間部には「ここが」という。

駐車スペースが足りない避難所もあり、「車で避難し、不便があった」という県民の声もあった」と明かす。今後は「ハザードマップに冠水した道路などの最新の情報を落とし込んで更新し、住民

が避難ルートを考える際の参考としてもらいたい」としている。

土木学会水工学委員会の台風19号豪雨災害調査団の関東地区団長を務める埼玉大大学院理工学研究所の田中規夫教授は「車は水深30センチ以下でも傾斜によってエンジンが水に漬かり停止する場合があります。エンジンが停止し窓も開かなくなる」とバニクに陥る。浴

滞が起きる可能性もあるの
で、徒歩避難が原則」と話す。
田中教授によると、大きな
河川(外水)は400〜500
0の降雨で氾濫するが、用
水路や排水溝など小さい河川
(内水)は200を越える
とどこかがあふれるとされ
る。

田中教授は「家屋倒壊危険
ゾーンの情報などで、事前に
自分の家が2階への垂直避難
で済む地域にあるか確認し、
無理なら浸水しやすい低平地
や水路沿いを避け、安全に避
難できるルートをハザードマ
ップを基に考えるべき」と述
べ、「台風時に仕事があれば
どうしても出勤し、車で帰る
うとして亡くなる人もいる。
鉄道の計画運休のよさに、オ
フィスのタイムラインを考え
る必要がある」と話した。

大渋滞の橋、強風も

台風19号が襲った10月13日
の真夜中。午前2時すぎに加
須市佐波の山本哲也さん(79)
は次女夫婦から起こされた。
利根川が氾濫する危険性が高
まり、市災害対策本部から避
難指示が発令された。事前の
避難勧告はなかった。

2階の窓越しから見える埼玉大橋は大渋滞。3人で車に乗
り、高柳小学校に着いたが、
避難した市民であふれ返り、
ふじアリーナに移動したものの
のこちも満杯。さらにSF
Aフラットボールセンターに移
つてようやく落ち着いた。

北川辺地区の避難指示は午
前1時に出た。近頃移動も含
む大渋滞だったが、午前2
時になっても埼玉大橋は渋滞
した。強風が吹き、怖い思い
をした人は多かったという。
避難の過程で氾濫や事故な
どがなかったのは幸いだった
が、真夜中の突然の避難指示
は適切だったのかとこの声
が出た。山本さんは防災放送
で避難指示が出たが、強風で
聞こえなかった家が多い。各
戸に防災ラジオを置くべきで
はないかと思う。避難指示が
予想されたなら、事前に避難
勧告をしても良かった」と話
していた。(江利川義雄)

友人宅から帰宅途中に

仕事に励み、趣味の川釣りを
楽しんでた。東松山市のタク
シー運転手坂田正美さん(70)
は、台風19号の雨が小降りにな
った際、避難先の友人男性(78)
宅から帰宅。川が氾濫して乗っ
ていた車が水没し、犠牲になっ
た。

坂田さんは坂戸市のタクシ
ー会社に勤務。もの静かで、客に愛
想良くするタイプではないが
「いつも朝4時に来て深夜まで
働く(2元同僚)まじめな運転手
だった。休日の楽しみは釣。イ
ワナの解禁日はつれづれに様
子で川の上流に足を運び、釣
上げた魚を同僚に振る舞った。

車の天井まで水

台風19号が接近した10月12日
夕、高台にある友人男性の家に
避難した坂田さん。雨脚が弱ま
った午後8時(ろ)「大丈夫そ
うだから帰る」と制止を振り切り、
車に乗って立ち去った。
その後、水が天井まで来た。
もっためた」と男性宅に電話。
対応した男性の妻が「助けが来
るから頑張ってください」と励ましたが、
翌日、農道で水没していた車の
中から遺体が見つかった。

「家によく遊びに来てくれた
し、一緒に温泉にも行った。も
っと強く止めてくれれば」。男性
は無念そうな表情でうつなれ

北川辺地区の避難指示は午